



『度重なるコンディションの変化に対応出来ず、ランキング 5 位で後半戦へ』



シリーズ名：2023 AUTOBACS SUPER GT シリーズ

大会名：2023 AUTOBACS SUPER GT Rd.4 「FUJI GT450km RACE」

レース距離：1 周 4.563km×100 周（456.3km）

8 月 5 日（土）天候：晴／路面：ドライ

8 月 6 日（日）天候：雨時々曇り／路面：ウェット・ドライ・ウェット・セミウェット

8 月 5 日（土）

公式予選：GT500 クラス 9 位：1:28.608

2ヶ月ぶりにスーパーGT 第四戦の富士ラウンドが晴天の中で開催された。

前戦の鈴鹿で優勝した 19 号車はシリーズランキング 4 位に上がり 22 ポイントとなったため、44kg のウェイトを積む事となった。

前戦の勢いのまま、2 連勝を目指して爆走を誓う。

午前中の公式練習では、44kg のウェイトを

積んでの決勝を見据え、多くの周回でタイヤ確認(グリップ、摩耗)を中心としておこなった。専有走行で国本選手がタイムを更新している最中に専有走行は赤旗終了。19 号車のベストタイムは混走時の 1:29.847 で 11 位となった。





午後からの予選、Q1 開始時の気温/路面温度は 33/45 度

Q1 のアタックは国本選手。8 分を切ったあたりでコースインした 19 号車は 4 周じっくり周回をして、残り 30 秒からの 1 発にかけたアタックを行う。

ターゲットタイムは Q2 進出タイムである

1 分 27 秒台を目指す、戻ってきた 19 号車のタイムは 1:28.608 と暫定 8 位の 17 号車に 100 分の 7 足りず暫定 9 位。そのまま順位が確定となり、19 号車は Q1 を 9 位で終えることとなり Q2 には進めず

Q1 の結果は 16-24-8-100-38-3-64-17-
(以上 Q 1 突破) -19-39-14-37-23-1-36



Q2 は 2 台の NSX と 1 台の Z とのトップタイム争いの中、19 号車と同じ YOKOHAMA タイヤを履く 24 号車が 1:27.763 を出しポールポジションを獲得。以下 16-8-3-17-100-38-64

明日の決勝は雨の予報も出ており、天候が読めない中、19 号車は 2 連勝を目指し爆走していきます。



予選コメント

【坂東監督】



『やはり重さが効いた感じの予選でした。またタイヤ選択に関しても 2 種類持ちました。しかし思ったタイムは出ませんでした。24 号車のポールタイムを見るとヨコハマゴムの良さは確実なので決勝はドライで全開勝負したいですね。』

【国本選手】



『Q1 突破出来ずに残念です。朝のフリー走行から車のバランスとタイヤグリップに手応えが無く、予選までに合わせることが出来ませんでした。』

【阪口選手】



『決勝に向けたセッティングにフリーで時間を費やしたので、予選は厳しい戦いになるだろうと予想していました。それに路面コンディションも良くなく、サクセスウェイトが効いていたので自分たちにとっては厳しい予選になりましたが、国本さんが 9 位と健闘してくれました。』



決勝：GT500 クラス 12 位

450km レースで 2 回の給油義務が有る中、レース最中に雨が降る予報が出ており、チーム戦略や天候にてレースが大きく左右されることが予想される。

午前中から振り続けている雨がグリッドウォーク直前には止み、しかしスタート直前には雨が強くなってきた。スタート前に予定された各種イベントが中止となる中、粛々とレースに向けて準備を進めていく。

19 号車を表彰台の頂点に送り出すべく、最後まで調整に余念が無い。

決勝直前の 20 分のウォームアップ走行では決勝にむけてレインタイヤのチェックに専念し、9 周周回して 11 位となった。

スタート直前は雨が止んだり降ったりで天気は全く読めず、路面はウェットのまま。

気温/路面温度が 27 度/33 度と雨が降ったことにより午前中より気温も路面温度も下がっていた。スタートドライバーは国本選手。セーフティカースタートとなり、パレードラン、オープニングラップは中止。レース戦略に左右されるスタート時のタイヤは全車レインタイヤでのスタートが切られた。

セーフティカー先頭で 2 周周回後、先頭の 24 号車から隊列を整え、最終コーナーから一気に加速し、レースがスタートを切った。ウォータースクリーンが上がるメインストレートから 1 コーナーで 39 号車にインに入れられ、19 号車は一つ順位を落とす。オープニングラップとなった 3 周目が終わり、メインストレートに戻ってきた 19 号車は最後尾まで落ちてしまった。

8 周目での 19 号車はトップから 38 秒遅れの 14 位。

雨が上がり、路面がだんだんと乾いていく 11 周目ごろ、各車レインからスリックにタイヤ交換を行うべく、1 回目のピットインを敢行する中、19 号車も GT500 勢の中では早めの 12 周目に 1 回目の





ピットインを行い、タイヤ交換、給油を行い暫定 15 位で復帰。全車 1 回目以上のピットインを終了した 19 周目の順位は 13 位。23 周目でのトップとの差は 1:04.286、12 番手の 36 号車とは約 38 秒の差となってしまった。

35 周目の 1 コーナー先で 300 クラス車両が車両火災となり、SC が入る。39 周目に車両の整列が行われ、各車とのタイム差がリセットされた。

そのまま SC が先頭で周回を重ねていき、41 周目からレースが再開となったが、19 号車のペースが上がらず、後ろの 17 号車にパスされ、14 位に落ちてしまった。47 周目前後で早くも 2 回目のピットに入るチームが出てくる中、53 周目に 19 号車が 2 回目のピットイン。阪口選手にドライバーチェンジをして、暫定 15 番手でコース復帰する。60 周目に全車 2 回のピットインを終えて 19 号車は 13 番手。

66 周目に 300 クラスの車両がコースアウト。車両火災が起き即座に SC が入るが車両消火に手間取り、レースは 67 周目に赤旗中断となる。

赤旗中断中に再び雨が強く降り出してきて再スタート時間が遅れる旨が通達された。コース上でのタイヤ交換が可能となり、19 号車もコース上でウエットタイヤの交換を行う。

幸い、赤旗中断中に雨の勢いが減り、最終コーナーあたりが明るくなってきた。赤旗中断時に出された 16 時半の再開予定時刻通りにレースが再開されたが、路面はウエットのまま。ただ、降り出した時間は短かったため、乾くのは早いと思われた。しかし路面の状況はあまり変わらない。残りレースは 1/3 の 33 周、19 号車は 13 位からの再開となる。SC 先導にて周回し、68 周目にクラス別に整列をし、再び SC 先導で周回し、72 周目にレースが再開する。だが、19 号車のペースが上がらず、14 位となる。

雨が上がり、ピットに入りタイヤをドライタイヤに替えるチームが出始める中、19 号車はタイヤをチェンジしない戦略を採り、87 周目には順位は 12 位、89 周目には 11 位に順位を上げるも後ろからスリックタイヤに切り替えた 14 号車が 19 号車をパスして 19 号車は 12 位でチェッカーを受けることとなりました。

レースは序盤に 3 番手スタートの 3 号車がトップに躍り出ると、後続を引き離しにかかるが、1 回目のピット戦略で 16 号車がトップに立つが、後ろから 14 号車が追い上げ、24 周目パスしトップに立つが、二度の SC が入る波乱の展開の中、2 度目の SC 後に赤旗中断となり、レースが再開になると、4 位だった 3 号車が一気に順位を上げて 75 周目にトップに出ると、後続を引き離して優勝。

皆様の応援、誠にありがとうございました。





決勝コメント



『全く予想と違う結果でした。

もっとデータを分析してデータを元にドライバーが乗りやすい、ドライバーが扱い易いタイヤを準備しないといけないですね。本当に課題が残るレースでした。

今回は前戦優勝した 19 号車ではなかったです。

自分の反省点はウェットタイヤの持ち込み段階で自分の選択の読みが間違っていました。夏場の富士だとこのくらいだろうと思っていたのですがかなり最初からドライバーには辛い思いをさせてしまいました。戦略的な部分ではミスはなかったと思いますがまだまだチームとしては縮められる部分はあると思いますのでこの結果を受け止め、次の鈴鹿にチーム一丸となって戦えるように今から切り替えます。今回は天候や路面が変わる中、チャンスは十分にあったと思います。足りない部分は明確なのでデータを分析致します。また今回は前回優勝した記念 T シャツやウェッズのグッズなどを身に着けてくれたファンが沢山来てくれました。本当にありがとうございます。スポンサー様、ファンの皆様の期待に応えられるよう残り 4 戦全力で爆走します。シリーズランキングは 5 位ですのもっと上を目指して頑張ります。本当に沢山の応援ありがとうございました。』

【国本選手】



『ウェットコンディションでのペースが悪く、厳しいレースとなってしまいました。サクセスウェイトが関係なくなるような荒れたレースだったので、ポイントを獲得したかったのですが、上手く行かず悔しいです。

次戦に向けてしっかりと準備してまた良いレースを魅せられるように頑張ります。』



【阪口選手】



『自分が担当したスティントではドライでのペースは前回の富士大会よりも、安定したペースを刻めていたと思います。

しかしウェットでのペースがかなり苦しく集団についていくことができませんでした。夏場のウェットを読み、持ち込んだ新規タイヤがマッチせず苦しいレースとなりました。

今回で悪天候でのフィーリング、方向性を掴めたのでうまく意見をまとめて次戦以降どんな状況下でも強いペースで走れるよう取り組んでいます。応援ありがとうございました！』

SUPERGT

<https://supergt.net/pages>

BANDO H

<http://www.bandohracing.com/>